

2024年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京グローバルビジネス専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1. 教育理念・目標

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像等が定められているか	4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか	3
理念・目的は、社会のニーズ等に対応し適宜見直されているか	4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか	4

①課題

日常業務や日頃の教職員間のコミュニケーションシーンにおいても MVV という言葉を耳にする機会は確実に増えていると実感することができている。昨年度、課題としてあげた『行動指針』の整備についても、本格的に動き出すことができている。MVV を基にその実現のための『佐々木学園らしい言動』を全教職員で話し合う学内研修を実施したので、そこで出たアイデアを『行動指針』として定める予定。

②改善方法

過年度同様、専任教職員に対しては、理念の浸透施策を施してきた一方で、兼任の教職員や学生への浸透機会を創出することができなかった。今年度は兼任の教職員の集まりや、契約書類等の郵送時、SNS 等の活用をとおし、理念等に触れていくことで、更に広い理解が得られるよう当課題に対し必ずや施策を施していきたいと考える。

③特記事項

専任教職員の採用選考時、MVV 等を配付し、それに対する質問を展開してきた。その選考を経て入職をしていただいた教職員は、早期より職場環境へ早く馴染んでいるように感じられる。採用時だけでなく、当学園に関わる多くの方々に、理念や方針を理解していただくことで、より強固な関係構築へと繋がることを感じることができている。

2. 学校運営

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか	4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか	4
意思決定のシステムは確立されているか	4
人事処遇に関する制度は整備されているか	4
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	4
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか	4

①課題

自己評価報告書の作成を開始して以来、初めて、当該項目の全てが『適切に運用されている』という『4』評価を記載できる体制が整ったように感じている。当学園の事業計画は、前述の MVV や、経営を支えるための数値的な目標である『学園目標』、職場環境をより良いものにするための『理事長目標』を核としている。それらを達成させるため各チームリーダーが考えた『チーム目標』、そしてリーダーからの期待値を受けて作成される個人目標へと落としこまれる。MVV や各目標の連鎖の上に、事業計画が成り立つような体制を整備できた。しかしながら、設問の『業務効率を図る情報システム化』について言えば、確かに存在はするものの、システム同士の連携が図れていない点は課題として挙げられる。

②改善方法

2024 年度より組織図に『情報システムチーム』を新設した。その業務分掌に『システムの開発・管理』等を定めており、それを担うためのスキルのある教職員を配置している。今後は、当該チームのちからを借りながら、その課題解決に向け動いていきたい。

③特記事項

コンプライアンス関係の更なる強化を図るため、新たな施策として、学園教職員用の『職場あんしん相談窓口』の運用を開始。しかしながら、まだ当件に関する認知度は高くなく、活用されるに至っていない。当該施策が表立って活用されないことは良いことであると思う一方、より広く周知をしてもなお、活用されていない状況を目指したい。

3. 教育活動

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか	4
授業評価を実施しているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか	4
資格（免許）の指導体制は整っているか	4
資格・要件を満たした教員を確保しているか	4
研修会等教員の資質向上への取り組みを行っているか	4
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか	3
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか	4

①課題

外部研修会の開催情報を得た際には、教職員にはその情報提供は滞りなく行い、例年以上に研修へ参加していただくことができた。参加者が得た知識は、教育の現場へ還元はできていると考える。また、各チームが必要に応じ、チームメンバーへの研修を自らの手で作り上げ、若手教職員に提供をしており、大変評価できる取り組みであると感じている。一方で、学園の全体像を把握したうえでの人材育成体系は整備できていないため、まずはその点の整備をすすめ、学生への教育に効果を与えることができるようにしていきたい。

②改善方法

人財育成体系の構築は、MVVの更なる浸透、教職員の知識やスキルの向上のため、必須であると考え。まずは現場の声としてニーズを集め、教職員からの希望度合いが高く、かつ学園のにとって有益となるような育成像を作成したい。

③特記事項

教職員の学生指導を観察すると、『何をやるのか、どうやるのか』、という説明には、どの教職員も、学生に理解してもらえるようなストーリーを提供できていると感じられる。一方、『何故やるのか』を分かりやすく説明し、腹落ちしてもらえるような情報提供機会については、学園としてまだまだ向上の余地があるように感じられている。

4. 学習成果

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか	4
資格・免許の合格率の向上が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか	3

①課題

過年度課題として挙げさせていただいたとおり、生憎、現状は『卒業生の社会的評価を体系的に把握する術を持ち合わせていない点』を課題として認識している。当然のことながら、年々卒業生数が増えてきているので、当該課題の早期解決をしたい意向。

②改善方法

卒業生の活躍を集約する体系的かつ効率的な手法の確立には至っていないが、卒業生支援のためのチームが新設され、稼働を開始。卒業生支援の窓口として、広報チームや進路支援のチームと連携し、当該課題解決のための一歩を歩みたいと考える。昨年度は、学園初となる『ホームカミングデー』を開催。このようなイベントをフックとし、当該課題の早期解決に向け、施策を充てていきたいと考える。

③特記事項

過年度にならない資格取得を促進させるための特別補習、早期内定を目指すための就職サークル等を無料で実施。資格取得の支援面においては、特別補習を開催する科目数が増え、教育支援の在り方に改善が見られた。また、就職サークルも『基本的な就活方法』を教える内容に加え、『ホテル就職のためのサークル』等が新設され、高い就職率の継続確保の一助となった。

5. 学生支援

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか	4
退学率の低減が図られているか	2
学生相談に関する体制を整備しているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	—

①課題

引き続き、退学率の低減を図るための施策として『特効薬』を見つけられずにいる状況。しかしながら、当校の学生の選考に関する質が向上したのか、開校当初と比べ、『音信不通』のまま退学となる学生はほぼいなくなった。退学者の多くは、家族都合や健康状態を退学事由として挙げているが、納得のできる対話の後に、所定の手続きを踏んだ学籍処理ができています。今後は、そのような事情を抱える学生にも残ってもらえるような環境を作り上げたい。

②改善方法

これまでは『退学問題』に対して『退学防止策』を充てる、という頭で考えていたが、別の方法も考えたい。姉妹校が『日本一学生が夢を語る学校』というコンセプトのもと、キャリア形成を明確化させる授業を導入。そのことが直接的な原因ではないかも知れないが、学生が前よりもいきいきと生活をしており、過年度より退学する者が少なかった旨を伺った。このように『直接的な退学防止策』ではないものの、『内側からエネルギー』を与え、モチベーションを上げることで解決の糸口を探りたい。

③特記事項

当設問にて問われている『就職支援』、『生活支援』、『相談体制』等はしっかりと提供できていると感じられる。MVVにもある内容が実現出来た際には、『サポート体制』、『授業内容』、『学費の安さ』、『施設の充実度』等を上回る学園の魅力になり得ると感じている。学生の夢の実現のため、組織の充実は図るものの、『教職員』の気持ちや寄り添い方、人間性を強みとし学生支援を行っていきたいと考える。

6. 教育環境

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか	4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

当該年度は、新型コロナウイルス感染症の鎮静化に伴い、多くの校外活動を実施できた。一生に一度の学生生活が実り多い時間となり、成長の機会となるように、限られた予算の中でも、工夫を凝らしたイベントや記念品等を提供できたように感じられている。しかしながら、やはり、限られた時間、サポート体制、予算の中で、だんだんとアイデアが尽きかけていることを実感していることもまた事実。学生第一という考え方で、より良い学習機会を提供したい。

②改善方法

どの学校も似たようなイベントや学修支援体制がある中で、当学園の色を出す施策を打ち出したいと考える。より多くの事例を収集することは勿論、せっかく身近にいる留学生たちに、母国の学校生活の話などをより深く聞き、参考にできることを吸収したい。当件は早期に実現できるものであると認識をしているので、迅速に行動へと移していきたい。

③特記事項

学生のインターンシップ等の機会が損なわれることがないように、学生保険の整備をし、運用を開始できた。また安全面を意識した校舎のメンテナンス等も、総務チームを中心に抜かりなくできているように思われる。その他、防火防災の研修に参加をする等、安全管理の知識獲得も促進している。次のステップとして学生への還元が挙げられる。しっかりと対応をしていきたい。

7. 学生募集と受入れ

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか	4
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考基準は明確になっているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は、妥当な金額設定になっているか	4

① 課題

新型コロナウイルス感染症の落ち着いたことにより、再び留学生が多く入国をしてくれたことに加え、入試・広報チームの募集戦略もあり、効果的な学生募集ができたように感じている。一方、多くの方に出願をいただいたが故、生憎、不合格という判定を多くの受験者に出さざるを得ない状況でもあった。そのため『入りにくい学校』という評価にならないように日本語学校等との関係構築により一層努め、『学生の希望する進路を叶える学校』とさらに認知してもらえるよう教育の充実を図るとともに適正な広報活動を実施していく。

②改善方法

入試・広報チームを中心に、不合格判定を出した学生が在籍する日本語学校宛に、電話でのフォロー、状況説明をしている光景等が多く見られた。そのような活動が信頼関係の構築に繋がっていることを実感している。また、日本語学校側と入学試験前にやり取りが発生した際には、不合格となる可能性も事前にしっかりとご案内している場面も見受けられた。そのような対応等を継続することで、信頼を得られているように感じている。

③特記事項

全国の日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先を選ぶ『日本留学 AWARDS』で、トップ10校に選んでいただくことができた。入試・広報メンバーによる日本語学校との信頼関係構築や、確かな就職実績、教育内容等を評価していただけたことに、教職員のモチベーションも向上したように思われる。引き続き、より良い学校づくりができるよう尽力をしていきたい。

8. 財務

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか	4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4
財務情報開示の体制は整備されているか	4

①課題

少子化が進む時代の中、学生募集は年々厳しさが増しているが、財務状況は概ね健全である。学費の延納、分納を申し出る学生は減ってきているものの、学費の支払い期日が来る度に、必ず一定数はそのような学生がいるのが実情。その学生には、最終的には分納という施策でサポートをさせていただいているが、それ以外の手を打てておらず、経済的に困窮している学生への支援施策の提供を課題として認識をしている。

②改善方法

退学者の発生は授業料収入の減少に大きな影響を与える。財務基盤の面からも、学生支援の面からも当該課題にはスピード感を持って対応をしていきたい。現状、日本人学生を対象にした奨学金や給付金制度は充実してきている一方、留学生への経済支援施策は、それほど選択の幅が無い。その中でも当学園の留学生にフィットする制度も存在していると思うので、調査をすすめ、学生支援、財務基盤の安定化の一助にしたい。

③特記事項

寄付行為に基づき、定期的な予算検討や決算説明のための理事会を開催し、監事の方々に財務状況の確認をお願いしている。数年前より、新しい会計事務所と契約し、より精度高く監査していただく体制を継続することができている。

9. 法令等の遵守

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか	4
個人情報保護に関する対策が取られているか	4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価結果を公表しているか	4

①課題

現状、特筆すべき課題はないと推察している。

②改善方法 特になし

③特記事項

弁護士と顧問契約を結び、様々な相談に対し迅速に対応をしていただける体制を整えている。

10. 社会貢献・地域貢献

【評価項目】 適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
国際交流に取り組んでいるか	3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか	3

①課題

学校の教育資源、そして留学生と日本人が混在しているという特色を活かし、より創造的な社会貢献、地域貢献の可能性を探る必要性があるように感じられる。

②改善方法

当校と特色が類似している学校がどのように、地域貢献、社会貢献を行っているのか、まずは、事例の学習を実施すべきと考える。その上で、周辺環境等とマッチする施策を打ち出したい。

③特記事項

特になし